

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの「入居者本位」の理念に地域密着型サービスの意義を加え、職員全員で内容確認に努められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“その人らしい生活”を目指し、毎日の申し送りの時に職員全員で理念を唱和、確認しながら利用者に向き合う姿勢がうかがわれる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内文化祭に作品を出品したり、保育園との交流行事を行っているが、まだ地域自治会等とのつながりが薄い。	○	地域密着型ホーム実現のためにも自治会へ加入し、地域から受身だけでなく、貢献できる事を発信して、積極的な地域との融合を図っていただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を見直し、課題とされた項目については前向きに取り組めるよう予定を立て改善に努められている。		

宮崎県新富町 グループホーム陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回の割合で運営推進会議を実施している。開催日時の調整が合わず、参加者が少ない月もある。	○	運営推進会議は、2か月ごとの開催を目指していただきたい。また、構成員の多くが参加できるようホームの年間行事と抱き合わせたり、開催日時を検討していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム行事の案内を出したり、もろもろの相談に乗ってもらったりしている。		ホームが地域に貢献できるような部分（地域の“お助けハウス”として登録など）を地域に提示をすることも一案である。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会の際に利用者の状況を伝えたり、毎月のお便り等の中で報告をしている。遠方に在住の親族にも状況報告を実施しており喜ばれている。		お便り発送の際に写真などを同封するのも効果的である。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情機関の掲示をしたり、苦情・相談用紙を玄関に準備している。また、家族会や面会時に担当者が家族から苦情を受ける体制にもなっている。		なるべく家族が苦情や意見を言えるような雰囲気作りをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年、代表者を含め3人の異動・離職があったが、なじみの関係を崩さないよう、職員は個々の利用者への配慮が見られる。		“介護のプロ”を目指す職員としての資質向上に向けて、さらに自己研さんを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には積極的に参加し、伝達研修が行なわれ、全職員が共通情報を習得できる体制が取られている。		多くの研修に職員が参加し、最新情報が習得できるよう、さらに細かい年間研修プログラム作成を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。また、認知症家族の会には積極的に参加し、職員の見学などホームの相互訪問が行なわれている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に1か月間の見極め期間を設けたり、入居後も家族と連携を取りながら、本人が安心して過ごせるよう工夫が見られる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いの思いを尊重しながら職員は利用者を支え、利用者からは経験豊富な助言と知識をもらうという関係構築に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き取り、家族にも相談をしながら、それぞれの希望に沿った対応ができるよう努力されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、定期的なもののほかに状況に応じてミニカンファレンスをするなど、より細かい検討がなされているが、若干記載に不十分なものが見受けられる。	○	職員は積極的に介護・援助に携わっているが、介護に関わった期間や経験の差を研修等で向上させ、全員がケアプランを立てられる目標に向け努力していただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については定期的な見直しがなされており、状態に即した内容になっている。		さらに細かい観察と、関係者との話し合いを継続していただきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の声を聞きながら外出支援や通院支援が行われている。	○	個人的な外出支援や医療機関との連携に関しては柔軟に対応していただきたい。また、地域の認知症ケアの拠点として、相談受け入れや支援の検討をしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員がかかりつけ医で対応している。受診は基本的には家族対応となっているが、状況によっては職員も同伴し、医師の指示を受けるなどの支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアの必要性は認識している。現在支援に向けて準備中である。利用者の一人は主治医に終末ケアを依頼しているところである。	○	ホームは終末ケアに向け、地域の協力医を複数確保し、状況によっては往診体制を確立するなど、前向きに対応していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	随時声かけをしながら本人の意志を確認し、利用者個々のペースを尊重した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の主菜は隣接の通所介護施設で作られた物を盛りつけしている。汁物と通所施設が休日となる日曜日の食事はホーム内で調理している。季節感を重視した食事場面が設定され、利用者と職員と一緒に準備、食事、片づけが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3日、昼間の時間帯が計画されているが、希望すれば毎日でも、午前中や就寝前の時間帯でも可能な状態に準備されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は利用者全員で話し合い、本人がやれるものをそれぞれで決めて実践されている。日めくりの文字を書いたり、ちり紙たたみをされたりと、それぞれの特技や機能が活かされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を配慮しながら買い物支援やミニドライブが行なわれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は原則掛けない方向で対応しているが、職員が一人体制の時や利用者の状況によっては短時間のみ一部に施錠することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は実施しているが、地震・水害等の訓練については行なわれていない。	○	防災訓練及び緊急時避難訓練は定期的に行っていただきたい。地域の協力体制については、運営推進会議等で近隣の行政機関等にも協力を早急に依頼してほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については1日に5回の補給のほかに、居室に水分補給用ペットボトルを常備し、夜中でも摂取できるように配慮されている。食事摂取量や摂取状態は把握され、きざみ食やトロミ食などの対応がされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの間取りや採光等にも気配りが見られ、ゆったりと過ごせる雰囲気になっている。壁面には季節を感じる飾り付けが随所に見られ、優しさと温かさが漂う空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとに個人ののれんが下がっており、それが部屋の識別に役立っている。床の一部が畳敷きになっている居室があったり、家族の写真やなじみの品々が飾られていたり、随所に工夫が見られる。		

※  は、重点項目。